

炉辺談話 465

2680 地区 PDG 田中 毅

ロータリーの歩み ⑤

ロータリーは、会員の親睦と互惠取引による利益の追求を目的に発足しました。そのエゴイズムに内外から批判が噴出したことを機会にその運動をチャリティに転換しました。

それと時期を一にしてアーサー・フレデリック・シェルドンの提唱によって、全く新しい発想による経営学に基づく企業経営を取り入れて、会員の事業は大きな発展を遂げました。シェルドン・スクールのモットーであった **He profit most who serves vest** を

ロータリーのモットーとして採択しましたが、その内容は現在の修正資本主義そのもので

あり、唯一異なる点は、事業主に課せられた数々の規制を事業主自身が自主的に行うことが、国家の規制によって行う修正資本主義と異なる点でした。

経営方針を 30 年以上も先取りした手法であったため、シェルドニズムを順守したロータリアンやシェルドン・スクールで学んだ学生は大きく事業を発展させましたが、一方、修



民主党

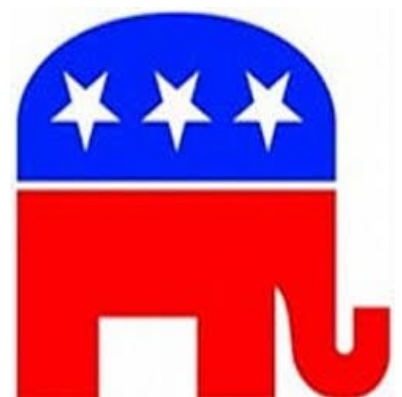


共和党

正資本主義は民主党の考え方であり、当時の政権は共和党が長く続いたことや、ロータリーの中核部は圧倒的に共和党派が多かったために、シェルドン派はアナキスト(反政府主義者)呼ばわりされ、ロータリー内部の実権は社会奉仕派が主流を占めるようになります。

世界大恐慌によってフーバー大統領(共和党)に代わってルーズベルト大統領(民主党)が就任し、1938 年頃から修正資本主義が採用されます。シェルドニズムの信奉者であったパーシー・ホジソンが 1949 年に **Service is my business** をモットーとして採択し職業奉仕の必要性を説きましたが、すでに民主党の修正資本主義が定着した後のことでもあって、その運動は長続きせず、ロータリーの社会奉仕活動の流れを止める勢力には至りませんでした。

長らく廃止されていた RI 職業帆足委員会は 1987 年に復活しましたが、その性格はシェルドニズムと



Vocational Service is the responsibility of both a Rotary club and its members. The role of the club is to implement and encourage the objective by example and by development of projects that help members contribute their vocational talents. The role of members is to conduct themselves, their businesses, and their professions in accordance with Rotary principles and to respond to club projects. (RCP 8.030.1.)

かけ離れて大きく変化してしまいました。委員会は「職業奉仕に関する声明」を発表しますが、実はこの中に書かれている、「クラブが職業奉仕を実

践する」という文章について疑義が生まれてきました。

何故ならば、シェルドンの職業奉仕理論の中からは、クラブが職業奉仕の実践を行うという発想は出てこないからです。職業を持っている個人だから職業奉仕の実践ができるのであって、職業を持たないロータリー・クラブがどうやって職業奉仕の実践をするのかという極めて単純な疑問です。

さらに RI は職業奉仕の具体例としても職場訪問、優良従業員の表彰、ボランティア活動をあげていますが、果たしてこれが職業奉仕活動かどうか、疑問の残るところです。素晴らしい職業奉仕の実践をしているクラブの会員の事業所を訪問するのならばともかく、ほとんどの職場訪問は、ビール工場へ行って一杯よばれて帰るのが定石ですし、優良従業員の表彰は、その人の地域社会における職業上の功績を表彰するのですから、厳密には社会奉仕であって職業奉仕とは言えないのではないのでしょうか。

もう一つの間違ひは、ボランティア活動を職業奉仕の範疇に入れることです。医者という立場でフィリピンに行って白内障の手術をするのは職業奉仕ではありません。何故ならば、その医者はこの活動の受益者ではないからです。国内でボランティア活動をすれば社会奉仕、外国ですれば国際奉仕です。ボランティア活動をする活動の場所がどこであるかによって、社会奉仕か国際奉仕に分かれてくるとしても、これが、職業奉仕活動ではないことだけは確かです。

決議23-34で **Service above self** が **He profits most who serve best** と同列に認知された以降は、徐々にその立場が逆転し、いまや第一モットーとして **Service above self** が奉仕理念の主流に変わった感があります。規定審議会には毎回のようにイギリスから **He profits most who serve best** を廃止しようとする提案が出されています。



性差別用語廃止を表向きに、2004年規定審議会では「**He**」を「**They**」に、さらに2010年には「**They**」が「**One**」に変えられました。ロータリーに革命的な変革をもたらしたモットーと、アメリカの公民権運動を同列に論じる愚かな論争としか言いようがありません。これらの運動の本質にあるものは、「**He profits most who serve best**」というモットーを廃止して、「経営学を中心にした近代的企業経営」を目的にしたシェルドンの思想から脱却して、最終的にはロータリー運動を、「世界的規模のNPO組織」に転換することにあると思われま

そのためには世間の目をひくような大規模な社会奉仕活動をする必要があると考えたRIは、1978年には3-Hプログラム、1985年から「ポリオ・プラス」運動を開始しました。

2003年の国際協議会でグレン・エステスRI会長エレクトは「世界最大のNPOであるロータリー」という発言をしています。2005年RI会長をしたステンハマーはRIのテーマを「**Service above self**」にしました。

「ポリオ・プラス」運動はその効を發揮して、後僅かの段階までできましたが、突然起こったイスラムの混乱によってポリオが局所的ではありますが爆発的に発生し、この運動自体が水泡に帰する可能性すらでできました。

2013年ころからは従来主流であった小型のWCSを徐々に廃止して、世



間の注目に値するような大型のプロジェクトに集中するグローバル補助金制度が開始されましたが、これらの運動の背後には、ロータリー財団100周年に当たる2017年にロータリー平和賞を受賞しようとする意図があると勘ぐる人もいます。

私は決して社会奉仕活動や国際奉仕活動を軽視するものではありません。RIから提示される奉仕活動の実践例は、RIが世界的レベルに立って調査した結果提示したもので、全て重要なものばかりです。しかし、クラブ・レベルでさらに重要なプロジェクトがあるのなら、それを優先すべきです。シェルドニズムに則って立派に職業奉仕活動を実践し、その結果得た利潤を活用して個人やクラブの裁量に従って、これらの奉仕活動に活用すべきだと考えています。私自身も自らが選択した国際奉仕活動をクラブに提示して、その実践活動に参加して、初めてロータリアンになった喜びを実感した一人です。

「ロータリー」はロータリー運動の概念を現す言葉であって、その原点となるのは「ロータリアン」個人です。その「ロータリアン」の集合体が「ロータリークラブ」であり、「ロータリークラブ」の連合体が「国際ロータリー」です。「国際ロータリー」は「ロータリークラブ」の連合体であって、個々の「ロータリアン」を規制する権限は持っていません。「ロータリークラブ」は定款や細則に違反しない限り、「国際ロータリー」は何らの指示や命令をする権限はなく、全て要望なり要請に過ぎません。国際ロータリーの決定や決議は国際ロータリーの役員の行動を規制しますが、ロータリアン個人には及びません。

定款や細則には「奉仕理念」や「実践活動」については、触れていませんので、どのように考えるか、どのように行動するかは全く個人の自由に委ねられているのです。

すなわち、ロータリークラブにせよロータリアンにせよ、定款や細則に違反しない限り、どのように考えるか、どのような行動をとろうが自由なのです。

アメリカのロータリーの役員やロータリアンの両類には **Service above self** の札がびっしりと貼り付けられています。日本では片類に **Service above self**、片類に **He profits most who serves best** と張られた人に混ざって、両類に **He profits most who serves best** が張られた人がかなり多く見受けられます。このセミナーが終了した時には、全てのロータリアンの両類には **He profits most who serves best** の札がびっしり張られていることを期待いたします。